

何が丁だったのか覚えていませんが、とにかく甲は一つもなく丁があつたのです。

ところが二年生になると甲がいくつかつけられるようになり、先生からほめられたといつて喜んで家に走つて帰り母に告げたことを覚えています。私が姿勢を正してきちんと椅子にかけ先生を見ていたので先生に「みんな中根のようにしておれ」といつてほめられたこともありました。二年生のときは甲がいくつもありましたが、三年生には乙が一つ、あとはみな甲、四年生では全甲でした。

小学校のときの先生はじめは清水先生、あとは川田先生でした。川田先生のお宅は学校の近くにあり、履物や煙草を売つておられました。私は先生からいわれてよく煙草を取りに行ったことを覚えていますが、いつもお宅まで走つて行きました。体操の時間は川田先生はいつも私に号令をかけるように言われました。学校の庭には一段高いところがあつて大きな桐の木がありました。普通の場合は先生がその段に上がつて号令をかけておられました。いつの間にか私が代理をするようになりました。体操の時間になると先生が私を見てちよつとあごを上げられ、さあ上にあがりなさいという合図をされる。そうすると私がすぐ段の上にあがつて先生の代りに号令をかけ体操をさせたものでした。

県立長崎中学校の一年生のときでした。校内運動会でマラソン競走があつて、道の尾というところまで往復するのですが、大体片道八キロ以上もあるところだつたと思います。一年生で何人参加したかわからないのですが、完走したのは一年生は私一人でした。